

〈連載45〉



クルーズフェリー「いしかり」による 名古屋～仙台ミニクルーズ



大阪府立大学船舶工学科助教授

池田良穂

この3月、名古屋～仙台～苫小牧間に素晴らしいカーフェリーが登場した。その名はニュー「いしかり」。先代の「いしかり」の代替船である。名鉄系の太平洋フェリーが、同航路に順次投入している大型カーフェリーの第3番船にあたる。一番船の「きそ」および2番船の「きたかみ」は三菱重工業の下関造船所で、三番船の「いしかり」は同じ三菱重工業の神戸造船所で建造された。

6月1日土曜日、この「いしかり」に船仲間約30名と共に乗り込んだ。これは、筆者の主宰する商船ファンのためのミニコミ雑誌「船と港」が増刊以来11年にしてようやく50号を迎えた御祝いを船の上でするためであった。せっかくの御祝いであれば、現在一番注目されている船をと考え、同船に白刃の矢を立てた。同船のハード面での充実ぶりは、3月に名古屋で同船の完成披露に出席させて頂いてつぶさに見ていた。この船であれば目の肥えた船キチ仲間の眼鏡にもかなうに違いない。公室まわりは本格的クルーズ客船並みのグレードだ。いや、へたなクルーズ客船よりかなりグレードは高い。

出港2時間前に、名古屋のフェリーターミナルに着岸している同船に乗船する。船内に入ると3層にわたる吹き抜けを持つロビーにでる。最近カリブ海に登場する大型クルーズ客船やバルト海のクルーズフェリーによく取入れられている設計だが、日本のカーフェリーでは初めてであろう。ここで、フェリーに入ってきた乗客がちょっと驚きの声を上げる。この強烈なファースト・インプレッションが、これに続く船旅に甘い夢を与えてくれる。最近のクルーズ客船では、このファースト・インプレッションとラスト・インプレッションを大変大事にしている。これが船旅を楽しく、素場らしい思い出を演出するからである。

乗船後、ローズルームで祝賀パーティを開催させてもらった。いしかりの船長、太平洋フェリーの名古屋支店長の加藤さん（加藤さんとはバルト海クルーズフェリー視察と一緒にいった仲）、工務の水谷さんにも参加していただき、雰囲気も料理もずいぶん豪華なものであった。さらに、気の合った船ファンの集りであったから話題には事欠かない。いろいろな船の話しにおおいに盛り上がった。

パーティの後、それぞれデッキに出て名古屋出

港のシーンを楽しむ。9時からはトップのスターライトラウンジでショータイム。内容はクルーズ客船に比べるとやや貧弱であったが（クラシック音楽とカラオケがミックスされていて、いささか構成ミスの雰囲気）、日本のカーフェリーについての常時船上でのエンターテインメントをやるようになったことは、まさに画期的な出来事といってよい。日本のカーフェリーも、単なる物流機関から、楽しむためのレジャー機関としての機能もかね備えつつあることを実感した。

翌日、 起きると船は房総沖を北に向っている。少し横波があり、船は2〜3度の横揺れをしている。筆者はなんともなかったが、参加した仲間のうち数人がやや気分がすぐれないという。

さっそく、運動の周期を計って見るとちょうど6秒。2回前の本欄で船酔いについて解説したが、その時に指摘した眩暈の一原因となる耳石の同調周期と思われる6秒とぴったりと合っている。6秒前後の運動が最も船酔いを起こしやすいという主張は、なんとなくもっともらしいと感じた。

午前中にミーティングルームで、工務部の水谷次長から、「いしかり」の建造計画および経過について説明を受け、いろいろ質問がなされた。参加者からは、昨晚から乗船して気がついたことが遠慮なく指摘された。ユーザーの目は意外に厳しい。さて、この本格的ミーティングルームもなかなかよい。バルト海のクルーズフェリーのように、会社関係者などを中心に洋上での会議客、研修客を誘致することもこれからの日本のカーフェ



リーにとっては市場の拡大のためには欠かせない。この分野は、現在の所、日本のクルーズ客船の独占市場であるが、定期カーフェリーの分野でも大いに期待できるマーケットのように思う。

昼からは、ブリッジの見学、ギャレイツアー、エンジンルームの見学などが行なわれ、船ファンにとっては充実した時間を過ごすことができた。この後、同船の展望浴場でひと汗流す。日本人にはこの展望浴場が人気があり、いくつかのクルーズ客船にもあることは周知の通りである。大海原を見ながら入る風呂は爽快である。航海中はいつでも入れるサービスも嬉しい。

夕方、5時に「いしかり」は仙台に到着。約21時間のミニクルーズは終わった。仲間達は、その足で、新幹線や夜行バス、そして飛行機で東京や大阪に帰っていった。まさに船に乗るだけを目的とした旅であった。最近、欧米ではノーウェア・クルーズといって、どこにも寄港せずに船旅だけを楽しむクルーズが増えている。われわれの今回のミニクルーズも、まさにノーウェア・クルーズであった。なかなか一般の人には分かってもらえないが。

世界の客船の百科事典最新版

編集：山田廸生・池田良穂

世界の客船 '90

PASSENGER SHIPS OF THE WORLD '90

好評発売中！！

現在、世界で活躍する5,000総トン以上の定期客船、クルーズ客船を全て写真と要目そして解説をつけて紹介した客船の百科事典。

すべての客船ファン待望の一冊。

定価：4,800円

発行：船と港編集室

販売：舵エンタープライズ

お近くの書店にお申し込み頂くか、直接販売元の舵エンタープライズ（郵便振替：東京 6-79562 Tel.03-3267-1950）または発行元の「船と港編集室」（郵便振替：大阪 5-116868）にお申し込み下さい。送料は310円です。